HTLV－I母児感染の追跡調査

川名　尚（東京大学医学部分院）

HTLV－Iの母児感染の実態について，prospective studyを行うべく，1977年の妊婦血清中のATLA抗体の検索を行った。この中で陽性者から生まれた児について，現在（約10年後）HTLV－Iの感染があるか否かを検討することを目的とした。

（材料と方法）

1977年に東大病院産婦人科にて分娩した妊婦573名を対象とした。これらの妊婦から妊娠中に採血し，血清に分離後，50℃，30分加熱後，－20℃に保存した。

抗体価の測定は，ELISA，PAを用いて，スクリーニングし，陽性例については，FA法にて確認を行った。抗体測定は，東大病院輸血部にて行った。FA法には，血清を10倍稀釈したものを用いた。

（結果）

(a) 抗体陽性者は，全部で4名あった。これは574例中の0.69％にあたる（表）。

(b) 4名中2例は，輸血歴のあるものであった。

（考察）

症例数は少ないが0.69％にATLA抗体陽性者がみつかった。この頻度は一般に云われている頻度よりやゝ低い。4例中2例は輸血歴があり輸血による感染の可能性が示唆されたが，残りの2例の感染経路は不明である。今後これらの児について，現在の状況を追跡調査する予定である。

ATLA抗体陽性者

名前	年令	輸血歴	ELISA	PA	FA
YM	30歳	＋	6.39	2.6	(＋)
SN	29歳	－	5.07	2.7	(＋)
HY	35歳	＋	3.24	2.5	(＋)
NF	40歳	－	2.94	2.6	(＋)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

HTLV-Iの母児感染の実態について,prospective studyを行うべく,1977年の妊婦血清中の ATLA 抗体の検索を行った。この中で陽性者から生まれた児について,現在(約 10 年後)HTLV-Iの感染があるか否かを検討することを目的とした。